

第30回 天保国替事件川北資料展

きのわ さくあと
一階 城輪柵跡展



矢部駿河守を祭る荘照稲荷神社

- 開催期間 1985年1月30日～3月31日
- 開館時間 9時30分～16時30分
- 休館日 月曜日・祝日
- 入館料 大人100円・児童生徒50円

酒田市立資料館

酒田市一番町8-16 TEL (0234) 24-6544

天保国替事件について

●天保義民^{てんぽうぎみん}

庄内藩10代酒井忠器に、1840年（天保11）11月、幕府から突如越後の長岡に移封の命が下った。酒井家は14万石、実高21万石といわれていた。それが格別の失政もないのに長岡7万石に減封である。庄内は国を挙げて大騒ぎとなり、特に農民が二君に仕えずと称し幕府に対して反対運動を展開した。この一揆は玉竜寺の文隣、西郷組の本間辰之助らの指導で遂に成功し、翌年7月、幕府は幕命を取り消した。これを天保一揆、天保義民、天保おすわり一件、天保国替事件などと称している。一般に百姓一揆は、権力者の非政に対して行われるものであるが、この場合は、藩主の善政を慕い留任運動に立ちあがった義民として特色があった。

しかし、事件の裏には幕府大奥の乱れや諸大名の幕閣の専政に対する強い批判、世論の反映があって、ときの老中水野越前守忠邦に対する庶民の反対が庄内農民の行動を支え、幕命を覆させる結果となった。庄内藩酒井家にとっては最大のピンチであったが、これを農民一揆という形で切り抜け、犠牲を出さずに農民の義談義挙として残している。
→〈佐藤三郎〉

参考資料（山形放送(株)編「山形県大百科事典」）

●文隣^{ぶんりん}

寛政11年～文久3年、64歳没。

学僧。鶴岡城下七日町の加茂屋文二の兄という。23歳の時鶴岡本鏡寺の弟子となり、画を谷文昇に学んだ。天保2年には、飽海郡遊佐の江地にある日蓮宗玉龍寺第11世となり、同11年、庄内藩主10代酒井忠器の長岡藩への転封阻止の為に、農民を動員して復領安堵の運動を始め、江戸に上って、上野の寛永寺やその他に援助を要請した。農民の書いた訴状文は大部分が文隣の作製したものといわれる。名は円貞、

支郎日誦と称し、水墨庵と号した。絵は山水が多く、鳥海山が特に多く描かれた。

著書「文隣記」 遺稿4冊。

参考資料（長南寿一編「庄内文化芸術名鑑」）

●佐藤藤佐

1775年（安永4）～1848年（嘉永元）。飽海郡遊佐町升川の生まれ。1794年（寛政6）、19歳で出府。旗本水野若狭守、伊奈遠江守に仕える。経済の才に富み公事に悩む旗本の財政を立て直し旗本の間に信頼を得、江戸町奉行矢部駿河守の知遇を得た。1840年（天保11）、酒井藩長岡転封の阻止を図り、庄内農民の直訴運動教唆の廉で訟廷に召喚され、転封の非を大いに論じ翌年7月、沙汰止みとなった。佐倉順天堂病院の祖佐藤泰然の父である。→〈菅原傳作〉

参考資料（山形放送（株）編「山形県大百科事典」）

●白崎五右衛門一実 六代

一恭の長子、越前屋6代当主、正、以直、幼時金竜和尚の教えをうける。15才のとき米沢興讓館に入学、神保蘭室に学ぶ。もっとも佐伝に通じた。香川景樹に和歌を学ぶ。弘化3年、蘭室の孫、神保乙平が故あって酒田へくると、明治元年の帰藩に至る迄およそ20年間これを助け、塾を開かせ子弟の教育に当らせる。

また、本居宣長の高弟服部菅雄の来酒によりその面倒をみる。天保2年酒田町医修業引立掛となる。同3年町用金受払方となる。同4年には佐藤蒿庵とはかり医会所「十全堂」をつくり、医学の研究と貧民の施療に当らせる。

天保11・12年のお国替一件では、本間光暉の旨をうけ佐藤藤佐とともに活躍したが、のち、川越藩主松平の邸に近づいたことを誤解され、売国の奸賊として庄内農民から自宅に投石など迫害をうけ、一時鶴岡へのがれる。実は、藤佐の深謀で、川越藩の様子をさぐっていたものという。

嘉永3年9月19日没、54歳。

参考資料（田村寛三著「酒田人名辞書」）

●荘照稲荷神社

蕨岡の大物忌神社の末社の一つに、境内に弘化3年創立、総檜造りの荘照稲荷神社がある。これは、酒井忠器公の長岡転封中止に尽力した人のひとりである遊佐出身の佐藤藤佐は、その才能をみとめられて江戸町奉行矢部駿河守に用いられ、駿河守を説いて幕議を変更させた人物である。（佐藤藤佐の項参照）駿河守が幕議において正論を発表して以来、水野越前守はこれを憎み、桑名に禁錮したので駿河守は断食して絶命した。

藤佐は、郷里大物忌神社境内に、駿河守の霊をお祀りしたいと念願したが実現せず、その後、地区民の努力により駿河守百年祭に合祭することができた。「おすわり居成様」として崇敬を受けている。

参考資料（遊佐町教育委員会編「改訂遊佐の歴史」より）